



単会の活動紹介 アクティビティ



秋田北

会員同士で親睦を深めた「東北希望の襷マラソン」

2022年11月6日に開催された「第4回東北希望の襷マラソン秋田大会」に秋田北倫理法人会有志9名と応援数名で参加してきました。東北希望の襷マラソン大会は、復興・マラソン・地産地消が一体化した取り組みで、東北に元気と希望を与え観光需要の創出や地域社会の活性化を図る目的で発足しました。震災から10年の節目、2021年からスタートし、東北6県をまわり開催しています。第1回岩手北上大会、第2回山形天童大会、第3回福島大会と続き、第4回秋田大会は秋田市雄和にある秋田県立中央公園陸上競技場で行われました。

8時30分に開会し、ハーフマラソン、キッズラン、親子ランなどのプログラムを行い、希望の襷リレーは13時30分から行われました。襷リレーは1周1Kmのコースを制限時間2時間でどれくらいの距離を走れたかを競う競技です。一人1Km～2Kmを襷をつなぎ走りぬきました。

この大会に参加するにあたり、秋田北倫理法人会のPRをかね、応援者も含め秋田北倫理法人会のロゴ入りTシャツを着て競技に臨みました。ロゴ入りTシャツ制作と大会参加費の一部は秋田県倫理法人会からの助成金で賄われております。参加した会員皆様とは、普段のセミナーや活動とは一味違った親睦を深めることができ、有意義な一日となりました。襷リレーの様子は、youtube(左記QRコードより)で配信しております。ぜひご覧ください。

秋田北倫理法人会 広報委員 三浦 修



書籍紹介 コレがおすすめ



※現在は新たな内容を加え
新装丁版として刊行されています。
税込1,800円(A5版 224頁)

私の倫理愛読書

幸せになる方法を発見した人 丸山敏雄伝 「これでよい」という言葉から、すべてを受け入れる実践へ

私の愛読書は丸山敏秋著「幸せになる法則を発見した人 丸山敏雄伝」です。この本の冒頭「プロローグ」には丸山敏雄の最期の言葉が書かれています。それは『急ぐな・先のことは心配するな・自然にまかせて処置をとれ・これでよい・喜べ』です。筆者はこの五つの言葉に丸山敏雄の生涯をかけた戦いの全てが語られている、と言います。

私は「これでよい」という言葉が印象に残っていて、すべてを受け入れる実践をしようと心がけています。できないことも多いのですが、まずこうありたいと強く願うことが大切だと思い実践しています。この本は丸山敏雄の生きざまに触れることができる一冊です。機会があれば皆さんも読んでみてはいかがでしょうか。

秋田県倫理法人会 会長 佐々木 雄二郎

学んで実践～よい習慣づくりはモーニングセミナーから!?

よい会社をつくりたい。私は経営者として、経営の目的は「関わり合う人たちの物心両面の幸せ」の追求と考え、学びの場として倫理法人会に入会しました。関わり合う人たちで最も身近にあるのが「社員とその家族」や「自身の家族」です。私はその人たちの笑顔を思い描きながら経営をしていますが、経営とは本当に難しいですね……時には重い車輪の様に感じます。

さて我々経営者は、よい会社をつくるため学ぶだけでなく、学んだことを実践し続けることが必要です。続けるということ、それはまさに習慣。その習慣づくりはモーニングセミナーからはじまりとも言えますので、まずはモーニングセミナーに参加することを勧められます。しかし実際は、様々な理由で参加ができ

ない方もいらっしゃると思う機会が多いです。そんな方々に少しでも倫理法人会の学びの本質を知ってもらいたく、実践されている経営者を本誌に取り上げました。学ぶは真似ぶともいいしますので、実践の内容を通して倫理について学ぶ機会になれば幸いです。

言葉一つひとつは難しく感じる倫理。しかし学べば学ぶほど、妙にしくりくるのが不思議です。これが事物の原理原則ということなののでしょうか?これから皆さんと共に学び、関わり合う人たちの笑顔を上げていきたいと思います。

大曲倫理法人会 広報委員 二方 淳介

秋田県倫理法人会会報誌

RINGS

心を合わせ叶えよう秋田の願い ゆるがぬ千社

秋田県倫理法人会では、心の経営を目指す人々のネットワークを拓ける活動をしています

人は鏡、
万象わが師
心の経営が
未来を拓く



RINGS 01

2022-2023
AKITA-RINRI

秋田県倫理法人会会報誌リングス
発行日/令和4年12月20日 ■発行/秋田県倫理法人会 広報委員会 〒010-0951 秋田県秋田市山王3-3-9 電話018-865-1781
デザイン・編集・印刷/株式会社秋田精巧堂

秋田県倫理法人会 広報委員会 〒010-0951 秋田県秋田市山王3-3-9 電話018-865-1781



秋田県倫理法人会



編集後記



心の経営探訪

人は鏡、万象わが師 心の経営が未来を拓く

株式会社 秋田食産 代表取締役 佐藤良一さん
(大曲倫理法人会 会長)

秋田県仙北郡美郷町土崎字上野乙205-9
TEL:0187-73-5046 FAX:0187-73-5047

実は自衛隊のレンジャー部隊に所属

豪雪地帯で南国の作物「雪国ばなな」「雪国珈琲」を作っていることでさまざまなメディアに取り上げられている佐藤良一さん。秋田食産を立ち上げるまでの経緯はどんなものだったのでしょうか。

「社会に出た最初は自衛隊で、レンジャーの教育を受けました。その後数社を経て勤め人として所属していた最後の業種は流通業界。それなりのポジションについていたのですが、親が大病を患い『帰ってきてくれ』と言われました。職場で積み上げてきた実績もあったのでだいぶ葛藤しましたが、今まで子どもとの時間がうまくとれなかったこともあって美郷へ戻ることに決めました。すると戻ったのはいいですが求職しても納得できる仕事がなくて(笑)起業に至りました。」



「刺繍・プリント」から「農業」へ

起業するといってもいろいろな業種があります。起業する際、いろいろな仕事を検討したと佐藤さん。

「流通業界にいたとき、さまざまな業種の経営者と交流することができまし



た。荷物の流れは経済の流れと一緒にすから、そこから景気の流れを考え、5つくらい列挙した中から最初に『みさとマーク株式会社』を立ち上げました。Tシャツやタオルにオリジナルプリントや刺繍をする会社です。前職の繋がりも活かし、業績は順調に伸びていきました。」

「ふるさとの耕作放棄地が多いという特質はもちろん、これから食糧難で農業が伸びるだろうと思っていました。いずれ農業をやりたい、と考え定款にも入れてましたので、起業から7年後、息子たちが大学を卒業した時に『株式会社秋田食産』を設立し、農業をはじめました。」

「ベビリーフから始めたのですが、うまくいくまで2年ほどかかりました。そのあと銀行と一緒にいちごに取り組む運びになった時、全国津々浦々へ視察に行きました。様々な理由があり結局当時はいちごを断念したのですが、視察時に身に付いた知識を活かし、次の展開はバナナやコーヒーなどに行き着きました。南国で採れる作物を雪国でつくるという珍しさで、商品に付加価値を加えることができるとも考えたからです。他の人たちと同じ物をつくっても商売としてうまく行く気もしなかったし……。」



聞いたこともなかった「人は鏡、万象はわが師」

入会して今年で5年となる佐藤さん。倫理で学びを重ね、学びを実践に移行して実際に社に変化はありましたか、と問うと「あった」と言い切ります。

「レンジャー部隊に所属していたせいでしょうか。以前は、人を動かすために威圧的、高圧的な態度で接していました。そんなやり方しか知らなかったんですね。人前で社員を怒ったりすると、他の社員も同調して“あの人は駄目だよ”と仕事中に言い出したり……。それでもそれなりに人は動いていたのですが、入れ替わりが激しくて。なんで社内が自分の思い通りにならないんだろうと思って、やり方ばかりを模索していました。でも自分の在り方だったんですね。今なら分かるんですが当時は分からなくて…。思い通りにならない社員は、まさに自分の鏡だったんです。社員が悪いのではなく、悪いのは自分。自分が投じたことが、そのまま自分に返ってきていただけなんです。倫理の学び通り、自分が変わるとずいぶん社員も変わりました。会社の雰囲気もずいぶん良くなりましたね。」

「またマイナスな物事を受け入れることもできるようになりました。以前はなんでこんな嫌なことが起こるのだろうと不平不満に思うことが多かったのです。でも今では起こる事は自分に何かを学べ、何かに気づけといっているような気がします。四条は嘘でもなんでもなく、全くその通りだな、と実感しました。」

万人幸福の策の四条は【人は鏡、万象はわが師】。それを佐藤さんは身をもって体験したのです。



心の経営で目指す明るい未来とは？

「人口減少や食の多様化で、10年後にはコメ余りがより深刻となるでしょう。コメの消費量が落ちると、秋田県の農家の方たちの収入も下がります。秋田県の11%は農業従事者ですから、この11%の消費が低迷すれば全産業に影響が出ます。そうなる前に、コメから別の作物に転換できないか考えています。」

「作りやすいコメを作って売れない、と嘆くのではなく、消費者がほしいものを作っていきたい。この地域はもちろん秋田で新たな農業の形を生み出して、外貨を稼げるようにすることで、持続可能な地域社会づくりの一助を担いたい。そしてここで暮らす人たちが笑顔でいられる社会を目指したい。」

と語られた佐藤さん。家族を養うために始めた経営は、社員はもちろん、ここで暮らす人たちの幸せや、地域の発展を想う気持ちへと進化を遂げています。この変化も「倫理」との出会いが大きいのでは、と感じられました。

これだと思い 「活力朝礼」を 会社で実践

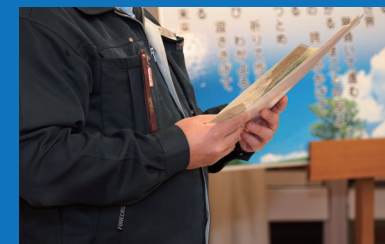
株式会社 小野建設
代表取締役 小野雅敏さん
(横手市倫理法人会 副会長)



役員朝礼で体感した「気持ちのよい朝礼」

平成19年に当時の専任幹事に誘われて横手市倫理法人会に入会した小野社長。

「1年間幽霊会員の状態でしたが、せっかく倫理にはいったんだからモーニングセミナーに来ないかと言われて、通いだしました。そのうちいろんな役をやるようになりましたが、いつも朝6時ぎりぎりの参加でした。暫くしたら単会の会長に、役員だから朝はもっと早くでなさい、といわれてしまい、役員朝礼に参加するようになりました。参加した朝礼のその活力みなぎる感じに感銘を受け、直観で“これはいい”“これを会社



に取り入れたい”と思いました。」

小野社長自身は消防団に所属していたので、皆で大きな声を出したり、動作を揃えたりすることは何ら抵抗ありませんでした。

はじめから「うまくいったわけではない」

やろうと決めたら会社で即実践。社員をいきなり消防団のように横一列に並べたそうです。自分はすんなり受け入れられても、社員の反応は全く違いました。

「ハイの実習を行うと、やるのが恥ずかしいとか、建設業ってそもそも挨拶必要なのか?とか、数多くの反対・反発の声が上がりました。しかし小野社長の朝礼を行う目的は明確でした。その目的は大きく3つ。1つ目はここから仕事が始まるといった、しっかりとした節目をつくること。2つ目は一丸体制、社員全員で気持ちを揃えること。3つ目は人前で話すことで度胸をつけること。どれもが社員の成長や組織の成長につながると確信していたので、反発があることを感じてはいましたが、とにかく続けました。」

同席していた副社長の小野人平さんは朝礼を始めた当時を振り返りながら次のように語られました。

「昔は返事がすぐに帰ってこなかったり、職場の教養もだらしく持っていたり、無駄が多い分、朝礼の時間も長かったです。今は自分も含めてずいぶん変わりましたね。」



最後に小野社長が活力朝礼の良さを次のようにおっしゃいました。「朝礼を通じて社員の仕事に対する考え方が変わってきています。また継続することは重要で、繰り返す度に、みんなで積み上げるように成長します。習慣になることで、自走する強い組織ができるのだと思います。」

今小野建設で行われている「活力朝礼」は皆で磨き上げてきた「型」。機会があれば見学して、自社の朝礼の参考とするのはいかがでしょうか。